

# 品質方針

経営理念に基づき品質方針を次の通り定める。

## 1. 安全確保の最優先 (a),(b),(c)

一人ひとりが自らの責任および権限を認識し、原子力安全を最優先に考えて品質の高い業務を遂行する。

## 2. 法令・ルールへの遵守 (a),(b),(c),(d)

法令や、作業要領書・手順書も含めた社内標準等のルール(原子力安全はもとより、保障措置、核物質防護、情報管理、環境保全等)、企業倫理に反しないことは当然のこと、常に地域との共生を目指す当社ならびに当社職員に求められる社会的要請、期待を的確に把握し、確実に応えていく。

## 3. 技術力の向上と現場第一主義の徹底 (a),(c),(d)

安全、安定操業の達成のためには、ゆるぎない技術力の確立と更なる向上、優秀な人材の確保が必須である。このため、各職場は、やりがいをもって仕事に取り組める環境を確立する。また、一人ひとり、学ばず姿勢を堅持し、小集団活動に積極的に参画し、職場の改善に努めるとともに、技術・技能の修得と向上に取り組み、得られた成果を着実に蓄積していく。

## 4. トラブル・不適合の未然防止 (a),(c),(d)

経営基盤の強化を目指すために、設備のみならず、日常の全ての業務に至るまで「業務の見える化」活動等を通じて、あらかじめ潜在するリスクを抽出する。そして、「自らの職場は自ら守る」、「自らの安全は自ら守る」との強い意志のもと、トラブル・不適合を未然に防止するため、根本原因分析、不適合管理、是正処置・予防処置等から得られた知見を共有する。

## 5. 顧客満足を得る製品および役務の品質確保 (d)

社内の全ての業務工程において、「後工程はお客様」と考え、後工程の声を聴き、ニーズを理解することで、各工程の品質を確保し、後工程の満足を得る。このような各組織の活動により、顧客の声、ニーズに応える製品(濃縮ウラン、ウラン粉末、MOX粉末、高レベルガラス固化体等の顧客帰属の廃棄体、MOX燃料)および役務(濃縮、埋設、再処理、海外返還廃棄体の貯蔵)の品質を確保するとともに、顧客に必要な情報を適宜発信し、顧客の満足を得る。

## 6. 協力会社との良好なコミュニケーションの推進 (a),(c)

社内のコミュニケーションに留意するのみならず、協力会社の意見や提案、指摘を真摯に受止め、経営層から現場最前線に至るまで全職員が意思疎通に力を尽くし、更なる連携強化を図る。

## 7. 積極的かつ分かりやすい情報公開の実践 (c)

社外の声に真摯に耳を傾けるとともに、情報をタイムリーに分かりやすく発信して説明責任を果たし、地域の信頼を得る。

本方針の達成のため、常にPDCAを廻すとともに水平展開を着実に実施し、業務の品質の継続的改善を図る。

2009年9月7日

日本原燃株式会社

社長 *(川井 吉孝)*

注釈:

- (a) 原子力安全に係るもの (b) 関係法令および保安規定の遵守に係るもの  
(c) 安全文化醸成に係るもの (d) 製品品質に係るもの